

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970700332		
法人名	医療法人 矢尾板記念会		
事業所名	グループホームかわせみ		
所在地	日光市平ヶ崎609-4		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 11 月 17 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 2 年 9 月 30 日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族同様の雰囲気の中、「安心ある普通の生活」「利用者と職員の相互援助」を心掛け、日々取り組んでいます。ご家族の行事参加が多いホームです。また、診療所が併設しているため利用者・家族共に安心して生活されています。同敷地内には介護老人保健施設があり、様々な行事に参加したり、リハビリスタッフに評価をしていただいています。  
新型コロナウイルス対策で制限が多くなっていますが、その中でサービスの質の向上・入居者様の生活の質の向上を目指して、新しいスタイルを模索しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、旧今市市の日光宇都宮道路近くに位置し、緑豊かで閑静な環境にある。地域住民の様々なニーズに応えるため医療・介護・福祉事業を幅広く展開する医療法人によって運営されている。①相手を敬い生き甲斐と安心のある普通の生活②相互援助を通じ相手を知ることを目指す③継続は力なり という理念を掲げ、利用者の気持ちを丁寧にくみ取り笑顔で過ごすことのできるケアを目指している。運営母体の診療所との連携はもとより、隣接する老人保健施設とも連携が図られている。特にリハビリスタッフによる評価が定期的に行われ、その評価を基に利用者の健康管理がされており、利用者や家族の安心となっている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者の外出や家族等の面会が制限される中、インターネットにつなげることができるテレビを新たに購入し、旅、食の楽しみ、体操といった様々な動画を見ることによって、利用者の気分転換、運動不足の解消に努めている。新しい取り組みとして電子カルテを導入し、業務の効率化も図っている。利用者のその人らしさを尊重する、温かい家庭的な事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が話し合って理念を作成。目の届くところに掲示している。また、毎朝理念を唱和している。理念を念頭におき実践に繋げている。	職員が毎日目にするリビングの壁に理念を掲示するとともに、朝の引継ぎ時に唱和するなどして常に念頭に置いてケアに当たっている。理念が身についていることで、職員は利用者に向き合い、より良いケアの実践に繋がるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルス対策の為行えていないが、自治会のお祭り・どんと焼き・そばうちに招待いただき、積極的に交流に努めている。また、地域の保育園・中学校との交流を行っている。	自治会の季節の行事への参加や、地域の保育園の運動会、中学校の文化祭・運動会での交流が行われている。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため制限があるが、保育園に卒園生へのプレゼントを届けるなど関わり方を変えながら継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の中で認知症の方への理解や支援方法を伝え、活かしていただいている。また、運営推進会議においても地域代表の方が理解していただき、地域とのパイプ役としてご協力いただいている。令和1年度には市の認知症シンポジウムにシンポジストとして参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況・活動状況を報告。外部評価結果の具体的な取り組み状況を説明。役員より意見をいただき、運営に活かしている。現在はコロナウイルス対策の為書面上開催としている。会議内容はミーティング時に報告。職員が交代で参加し、意見を述べる機会として活用できている。また運営推進会議を活用し身体的拘束等適正化委員会を開催している。	現在、市と相談し書面開催となっているが、それまでは自治会長、家族代表、市職員等の参加を得て開催している。自治会長からは防災ラジオの設置や行事への誘いなどもあり、そこでの意見を運営に活かすよう努めている。また、職員も交代で参加することにより資質の向上にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へは、市の介護保険課より参加いただき、ホームの状況を報告している。様々な書類の提出の際は、直接足を運ぶよう心がけている。	市とは、日頃から話しやすい関係を築いている。制度改正の疑問点を尋ねたり、市主催の研修会でシンポジストを務めたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化の為の指針や行動制限廃止マニュアルを作成。委員会を開催し身体拘束をしない方針で話し合い、ケアに取り組んでいる。また毎月のミーティング時に不適切なケアについて話し合いをもっている。エレベーターは、診療所が併設している為、やむを得なく施錠している。コロナウイルス感染拡大するまでは、外出したい際はすぐ外出援助できるよう心がけてきた。	委員会を開催して話し合うほか、スピーチロックの勉強会を実施するなど身体拘束廃止に取り組んでいる。言葉づかいについては、問題があれば現場や個人面談時に指摘している。エレベーターについては、危険防止のため、暗証番号によって開閉を管理している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加したり、ミーティング時に委員会の話し合いをするなど学ぶ機会を持っている。		

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加するなどして、後日伝達講習を行い、学ぶ機会を持っている。まだ理解不足の為、今後も研修等に参加し理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時には、詳しく説明し、重要事項説明書・契約書等の説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱をホーム内に設置している。また、ご家族アンケートを数年に一度行い掲示をしている。スタッフはご利用者ご家族が、気楽に要望が言える関係となるよう努力している。	普段から意見や要望が出し易いように家族と良好な関係を築くよう努めている。毎月、利用料等の請求書と一緒に利用者の生活状況や行事の報告書を送付するとともに、事業所を訪れた際には家族から意見や要望を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、様々な運営に関する話し合いを行っている。必要時管理者が介護職員の個別面談を行い、要望・希望などを聴取する機会を持っている。また日常的に意見を取り入れる様努力している。	毎年、6月の人事考課の際に面談を行い、更に必要があれば年末にも職員の意見要望を聴き取っている。また、常日頃からミーティングだけでなく、話をしやすい関係を作るよう会話を重ね、信頼関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、勤務状況を把握し、給与に反映させている。また、忙しい中短時間でも休憩が取れるよう配慮している。職員はやりがいを感じながら向上心をもって就業している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの勤務年数や力量に応じ、法人内外の研修・勉強会に意欲的に参加している。またキャリアアップを目指し、資格取得に向け努力している。全国GH大会にも参加し、令和1年度は発表も行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会において交流を持ち、何かあれば電話でのやり取りも行い、市内事業所間の連携は図れている。今後同業者との交流会を図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご本人の意見・要望不安な事など聞き、安心して生活していただけるよう努力している。入居後も随時聴取し、介護計画更新時に反映されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望・不安な事を伺っている。入居時には、ホームでの様子をご家族に電話で報告している。携帯のメールを使い、やり取りをすることもある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や相談時、ご本人の様子など伺い、グループホームの内容を話し、他施設を紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意分野を理解し、生活の中で一緒にいき、ご本人より学ぶ機会を作るよう努めている。またお互いに悩みを相談し合い、アドバイスをいただくときもある。常時寄り添うことを忘れず関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の現状を報告、相談し処遇に役立っている。現在はコロナウイルス対策の為行っていないが、ご家族との行事を作ったり、外出等の協力を頂き一緒に時間を過ごしていただいていた。今はオンライン面会を行うなど、離れて暮らしていても絆を大切に共に支援できる関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス対策の為行っていないが、面会時は、お茶とお菓子を提供し入室でゆっくりと過ごしていただいている。職員のアプローチとフォローでご家族協力の下、ご本人が自宅へ外出できるようになった方や、数年ぶりに帰宅できた方もいる。	以前、友人の面会があったり、通所施設との交流が出来ていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在自粛している。家族と職員が協力して利用者の希望の外出を実現する体制はできている。職員が支援して、数年ぶりに自宅に線香あげに帰った利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの人間関係・相性を把握し座席の席替をし、配置に配慮している。会話行動を観察しさりげなく間に入るなど気配りしている。		

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となっても面会に行ったり、事情により他施設希望がある場合はご家族と共に探し、協力しながら支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時など日々意向を聞いたり、日常の会話の中で意向を組みとっている。できるだけ希望に添えるよう、実現できるものについてはプランに反映させ、支援をしている。	職員は、日頃から利用者との関係を密にし、意向や希望を察するよう心掛けている。利用者との良好な関係ができており、部屋にいる時やホールにいる時など声掛けすると希望を話す利用者が多い。意思疎通が困難な場合はこちらから問いかけ表情などから察するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話しを伺ったり、サービス利用していた施設などに問い合わせ、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースに合わせて過ごしていただいている。何事でも「できない」とするのではなく「できるかもしれない」を念頭におき、まずは行なってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時、また必要に応じ随時ご本人・ご家族より希望を聴取し、計画に反映している。また併設老人保健施設のリハビリスタッフに評価をして頂き、介護計画に反映している。	3ヶ月ごとに同法人が運営する老人保健施設のリハビリスタッフによる評価がある。それに合わせて本人、家族の希望や職員からの意見を取り入れ、ケース会議を開き介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録については、具体的にわかりやすいように行っている。その情報をケース会議・ミーティング等において共有し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の診療所受診には職員が付き添い、直接主治医と情報交換がなされている。併設老人保健施設のリハビリスタッフに評価いただいている。以前より入居されている方が胃瘻造設し、併設診療所より協力いただき、当ホームでの生活を継続できている。		

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生の依頼は断ることなく受け入れている。地域の商店の方々にも入居者であることを理解いただき自然に対応いただいている。現在はコロナウイルス対策の為行えていないが、保育園・中学校との交流を行い協働できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は、希望によりかかりつけ医を併設診療所に変更する方が多く、職員付き添いの上受診。他の医療機関受診は紹介状を依頼し、ご家族の協力により受診している。	全利用者が、運営母体の診療所をかかりつけ医としている。必要があれば他の病院を紹介している。その際、家族には状況を伝えるとともに受診後は家族から聞き取りを行うなど、情報の共有に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所が併設している為、密に連絡を取り合い、連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と面会・電話により状態を確認し、入院先関係者・医師より情報収集し退院の日程を調整している。また、お見舞いに出向き、ご本人の状態を確認したり、看護師に状態を伺ったりもしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・ご本人の希望によりできる限り継続して入居できるよう医師と相談しながら対応。介護職へもその方向性・グループホームでの限界点をその都度周知している。ご家族にはその都度説明し、重度化・急変の可能性について随時説明している。	事業所としては看取りをする体制になっていないが、運営母体の診療所と連携して、重度化してからもできるだけ長く事業所で過ごせるよう配慮している。家族の希望もあり、結果として看取りになった実績もある。	今後、看取りを行うことになる場合も考えられることから、勉強会を開催するなど看取りについて理解を深めるような取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は併設診療所より協力いただき迅速に対応できている。消防署の救急法講座を受講したり併設老人保健施設での応急手当の勉強会に参加。だが実践力に乏しいため、引き続き継続して訓練が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設診療所と老人保健施設合同で消防訓練を行っているが実践力に乏しい。運営推進会議へ地域の消防団長がオブザーバーで登録。ホームにスプリンクラーも設置。市の防災ラジオも設置した。災害対策の研修にも参加している。	運営母体の診療所、隣接する老人保健施設と合同で年2回の消防訓練を行い、事業所の連携を図っている。利用者に合わせた避難方法がわかるように、部屋の入口には絵が表示されている。水、缶詰の備蓄を行い、自家発電の設備もある。	避難経路について職員がシミュレーションを行い話し合うとともに、自主的な避難訓練を取り入れるなど、災害対応力の向上を図る取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人としての尊厳を大切にしよう方針を立てている。その方の人格を尊重した言葉かけ、言葉使いに注意をしている。特に入浴時・排泄時のプライバシーには気を配っている。	利用者の人格を尊重した、名字または名前にさん付けを呼び方に行っている。トイレ誘導は耳元で行い、失敗した時もプライドが傷つかない言葉かけをしている。排泄チェック表は人目につかない手の届かない所に置いている。書類は書棚で管理しているが、今年に入ってから個人情報は電子カルテに移行する取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護計画更新時に、希望や不安などを聴取する他、日常会話を大切にし、1対1の時など話しやすい時に希望を表出できるよう働きかけている。また、日常的に「選択」をして頂き、自己決定の支援を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には毎日自由に過ごしていただいている。起床時間もその方に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在はコロナウイルス対策の為行えていないが、必要なものはご本人と共に買い物に出掛けるようにしている。理美容は職員が希望に沿って散髪している。ご家族の支援により、昔からの馴染みの店に通っている方や、ご家族が散髪して下さる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限りご利用者主体になるよう、できることを手分けし手作りで食事作りをしている。週1回宅配にて食材購入以外は、現在はコロナウイルス対策の為行えていないが、ご利用者と共に買い物に出掛けていた。できるだけ旬のものを提供し季節を感じてもらえるよう配慮している。	職員が利用者の希望も取り入れながら、毎食調理している。材料は生活協同組合(コープ)の宅配を利用している。利用者は下ごしらえなど、できることで参加している。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外食は自粛しているが、お弁当、寿司、ハンバーガーを購入して提供したり、がんもどきや焼きそばと一緒に手作りするなど食の楽しみを広げている。誕生日には希望のメニューで、ケーキも手作りしてお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設老人保健施設の栄養士がメニューを定期的にチェック。併設老人保健施設のリハビリ職員により評価いただいている。毎食食事をチェック。必要時栄養補助食品も導入。水分摂取のチェックを行うこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設老人保健施設のリハビリ職員に評価いただき、各個人に合った歯磨き粉や歯ブラシ舌ブラシを使用したり、個人の能力に応じた支援を行っている。週1回入れ歯を薬剤洗浄している。		

グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	多少失禁があっても、ご本人が拒否するようであれば、むやみにオムツを装着しない。もし、失敗をしても励まし、落ち込まないよう支援をしている。	各々の利用者に合わせて時間を見ながらトイレ誘導している。失敗した時の声掛けは、利用者の自尊心が傷つかないように配慮している。夜間もオムツ、リハビリパンツやパットを適切に使用し、自立した排泄になるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容も考え提供し、水分補給量にも気を配っている。運動を啓発しながら便秘解消に取り組んでいる。下剤による管理が必要な方については医師に相談しながら調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人が拒否した場合は無理に誘導せず次の日に誘導している。自立者に対しては必要以上に干渉せず自分のペースで入浴いただいている。また時間に余裕がある際は希望者に入浴していただいている。	週2回、一人30～40分程の入浴ができるよう支援している。入浴時間は主に午後であるが、利用者の状態に合わせ、午前にも応じている。職員と一対一でリラックスして入浴し、歌や会話を楽しんでいる。安全に配慮し、湯が白くならない入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の習慣を継続できるよう支援している。居室の明かりや室温を調節したり、音楽をかけるなどして安眠休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状について医師より直接説明を受けた上で薬剤の情報提供書を申し送りにより情報を共有。服薬支援時は、誤薬に細心の注意を払い、服薬確認をしている。貼付薬にも日付を記入。また副作用・変化などの観察も日々行っている。服薬しやすくなるよう工夫もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の楽しみ・嗜好の把握に努めている。また些細な役割にも生きがいを感じていただけるよう支援。楽しみの一つとして、家庭菜園を行い水やりや収穫を行っていただいている。また好きな番組や行事を録画したものを楽しみに鑑賞している。TVを買い替えインターネットに接続し、楽しみが増えた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大するまでは、買い物・散歩・ドライブなど日常的に地域に出る機会を作っていた。外出を希望される方が多い時は希望に添えないことがあり、頻繁に外出できるよう努力したい。またご家族の方も外出支援に協力して下さっているが、更なる外出の協力を期待したい。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出の機会は減っているが、診療所が休診の日には、事業所近辺の散歩を取り入れている。外出が少ない分、室内で景色が見える動画サイトの動画をテレビ画面に映し出して旅気分を味わったり、体操の動画に合わせて体を動かしたりしている。	



グループホームかわせみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族同意の上で、毎月立替の財布を個別に用意し、自由に使えるよう配慮している。また、お金を持つことで気分が落ち着く方は、少額の金額を所持する方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご本人が電話をかける援助をしている。また、コロナウイルス対策の為中々ご家族との面会ができず、オンライン面会を開始した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活室の窓にはロールカーテンを用いて日差しを調整している。季節の花などを飾り、台所の仕切りは手作りで作成した。居室はそれぞれ違うのれんをかけ、常夜灯には手作りの調光具を取り付け光量を調節している。エアコンは新しいものに入れ替えた。温度設定など変えてしまう方がおり、体調を崩さない様に注意している。	共有スペースのエアコンは職員が温度、湿度を確認し、こまめにチェックしながら管理している。朝昼夜と、次亜塩素酸のスプレーを使って拭き掃除を行っている。土日祝日以外の日頃の掃除は専門の業者が行い、快適に過ごせるよう配慮している。利用者が楽しめるよう壁に絵や写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室で、落ち着いて過ごしていただいている。共同生活室は手作りのもので仕切っている。中にはご利用者同士で居室へ訪問され、自由に過ごされている。居室でTVを見たいという希望があるので、可能であれば今後検討していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく過ごせるよう、ご家族にも協力を得て、負担とならない範囲で家具類を持ち込んでいただいている。家族の写真や飾っている方や位牌を持ち込んでいる方もいる。ご本人の状況を見て、家具の配置を変更したりもしている。	たんす、椅子、使い慣れたタオルケット・枕などを持ち込み、利用者が過ごしやすい環境を整えるよう支援している。家族の位牌を置いている利用者もいる。テレビは個室に置かず、共用のリビングで楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内各所に手すりを設置。居室、トイレ内にも手すりを必要に応じ増設してきた。転倒防止の為、床の凹凸解消の工事を行った。また、場所がわかりやすいようにシグナルを設置し自立した生活への工夫をしている。		